

調查概要

1 報告書について

本報告書は、令和5年4月13日に実施した「令和5年度足立区学力定着に関する総合調査」の結果を報告するものである。

調査の集計結果とあわせて、令和4年度に実施した同調査結果との比較及び学力と意識調査との関連性について着目し、その分析結果を記載している。

2 調査の目的

- ① 学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき、児童・生徒の学力の定着状況を的確に把握する。
- ② 児童・生徒の生活・学習習慣等の現状を的確に把握する。
- ③ 各学校が区全体の結果を踏まえた上で、自校の結果を分析することにより自校の課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法、並びに家庭との連携等における工夫・改善を図る。
- ④ 調査結果を分析し、区の教育行政施策に生かす。
- ⑤ 個人票などを基に、児童・生徒個々の実態に応じた指導改善に生かすとともに、結果及び課題を保護者と共有する。

3 調査の対象

- ・ 小学校 全67校の2年生から6年生までの児童
- ・ 中学校 全35校の1年生から3年生までの生徒

4 調査の時期

令和5年4月13日（木） ※ 全小・中学校で一斉実施

5 調査の内容

(1) 学習定着度調査

前学年における学習内容の定着状況を把握するため、観点や領域ごとの正答率を測ることができるように設計されており、どの科目も基礎問題と応用問題で構成されている。

また、国語と英語については、聞き取り問題が含まれている。

対象学年と教科は以下のとおり。

- ・ 小学校2年生から6年生まで：国語・算数（各40分）
- ・ 中学校1年生：国語（45分）・数学（45分）・英語（35分）
- ・ 中学校2・3年生：国語・数学・英語（各45分）

(2) 学習意識調査

児童・生徒の「学びの基礎力（学びを支える基礎的な力）」や「生きる力（これからの社会に必要とされる力）」がどの程度身に付いているかを把握し、あわせてそれが学力とどのような関係性を示しているかを分析するために、日常生活や、学校・家庭での学習状況等を調査している。発達の段階に合わせた質問内容で「学習や生活についてのアン

ケート」調査としている。

対象学年と調査時間は以下のとおり。

- ・ 小学校2年生から6年生まで：40分
- ・ 中学校1年生から3年生まで：45分

6 調査の実施人数

単位：人

学年		国語	算数・数学	英語	学習意識
小学校	2年生	4,606	4,608	—	4,614
	3年生	4,706	4,707	—	4,714
	4年生	4,644	4,647	—	4,654
	5年生	4,821	4,825	—	4,832
	6年生	4,831	4,837	—	4,839
小計		23,608	23,624	—	23,653
中学校	1年生	4,150	4,154	4,153	4,155
	2年生	4,095	4,097	4,096	4,104
	3年生	4,123	4,130	4,131	4,137
	小計	12,368	12,381	12,380	12,396
合計		35,976	36,005	12,380	36,049

7 各校の調査結果の公表

平成19年度から「観点別正答率（※）」、「学習意識」を公表し、学校ごとの取り組み結果をお知らせしている。

平成26年度からは、各校の取り組みの成果をさらに分かりやすく表現できるよう、「平均正答率」「目標値」「通過率」を2か年分示し、比較・検証をしやすいようにしている。1校1ページにまとめ、昨年度の成果と分析結果、今後の学習指導の主な取り組みを記載した。

※ 令和4年度から「領域別正答率」に変更

8 語句の説明

学習定着度調査においては、一般的なテストとは違い、「〇〇点満点」といった得点方式で採点を行っていない。

区では、児童・生徒の学力の定着状況を的確に把握するため、目標値以上の正答があった児童・生徒の割合を示す「通過率」に着目している。

それぞれの語句の説明は、次のとおりである。

● **正答率**

出題された問題の中で、何問正解したかの割合（正答数÷出題数×100（%））

● **目標値**

本調査において、前年度の基礎的な内容が理解できていれば正解できると期待される値（目標正答率）

● **通過率**

目標値以上の正答があった児童・生徒の割合
（目標値以上の児童・生徒÷受検者数×100（%））

● **平均正答率**

本調査を受検した対象者の正答率の平均値

● **全国値**

委託事業者が取り扱っている全自治体分の平均値